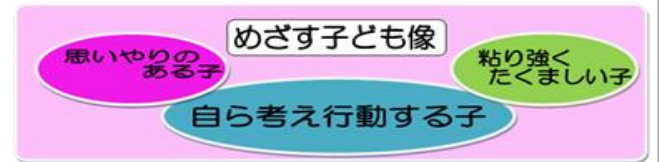




## めざす学校像

互いに認め合い、高め合う学校  
みんなが安心できる居心地のいい学校  
開かれた学校（学校・家庭・地域がつながりあうことを大切にする学校）



## 学校教育自己診断アンケートの結果を生かして

2月に「学校教育自己診断のためのアンケート」を実施いたしましたところ、たくさんの保護者の皆様にご協力いただきました。ありがとうございました。学校では毎年この時期に全国学力学習状況調査結果・児童への国語・算数アンケート結果・毎学期末実施の算数力試しテスト結果・校内学校教育自己診断アンケート結果等のデータをもとに、1年間の教育実践を見つめなおし今後の具体的な取り組みについて全職員で話し合い来年度の取り組みについて検討しています。アンケートの集計結果とともに話し合った内容についてご報告いたします。

### 全国学力学習状況調査から

国語算数ともB問題の正答率が高く、全国及び大阪府と比べてもよい結果となっています。

全国学力・学習状況調査は、問題がAとBに分かれています。A問題は基礎的な「知識」を問う内容で、従来のテストでもよく見られたものです。問題ごとに「できるか、できないか」、「わかっているか、わかっていないか」が、はっきりとわかる問題が中心となっています。一方のB問題は、単元を横断する総合的な問題が多く、学んだ知識を「活用」する力が備わっているかを見ようとしています。必要な知識も1つとは限りませんし、答えが1つではなかったり、自分の考えを書いたりしなければなりません。総合的な力が問われる内容です。そのB問題の正答率が伸びたということは、めざす子ども像を「自ら考え行動する子」とし、2020年度からの新教育課程を見据えて、新しい時代に必要となる資質・能力（下記）

- ① 何を理解しているか、何ができるのか。（生きて働く知識・技能）
- ② 理解していること・できることをどう使うか。（思考力・判断力・表現力等）
- ③ どのように社会とかかわりよりよい人生を送るか。（学びに向かう力・人間性等）

の獲得をめざして、『主体的・対話的で深い学び』をめざした子どもがつながる授業づくり・集団づくり』をテーマに、授業研究を行い実践してきた成果であると考えます。

### 自己診断や各種の児童アンケートから

- ・ 人の話を聞くことが大切だという意識が高い。
- ・ 自分の考えをわかるように話したいけど自信がない。
- ・ 全国学力状況調査の結果と比べ3学期の調査（6年生）では、学びたい、授業が楽しいという児童が増加した（教科担任制の成果）
- ・ 高学年の算数好きが多い（算数の少人数指導の成果）
- ・ 「学校へ行くのが楽しい・授業が楽しい・休憩時間に友だちと遊ぶのが楽しい」すべて低学年より高学年のほうが良い結果となっている。（つながりあう「集団づくり」を積み重ねている成果）

### 学校教育自己診断アンケート（保護者）の結果から

- ・ 子どもは、学校に楽しく通学している⇒肯定的な回答 95.1%
- ・ 子どもは、授業が楽しいと言っている⇒肯定的な回答 84.8%
- ・ 子どもは、休憩時間に友だちと遊ぶのが楽しいと言っている⇒肯定的な回答 94.8%
- ・ 子どもは、学校行事に生き生きと参加している⇒肯定的な回答 94%

以上4点については、非常に高い評価をいただいておりますが、各項目とも否定的な回答になっている児童のことを重く受け止めなくてはならないと考えます。

「学校は」から始まる質問項目に関しては、否定的な回答が10%を上回っているのが、外国や外国語に興味を持つ機会を作っている（13.2%）と教育方針をわかりやすく伝えている（12.5%）でした。しかしながら、「わからないという回答」、特に、デジタル教材の利用やいじめ・道徳にかかわる項目では、児童の肯定的な回答に対し保護者の皆さんの「わからないという回答」が非常に多くなっており、今以上に開かれた学校をめざし情報発信に努めなければなりません。また、「早寝・早起き・朝ご飯」の定着やスマホ・ゲーム機・タブレット等の使い方など、基本的な生活習慣についても大きな課題があると考えました。

今回課題となったことの解決をめざして、平成31年度（2019年度）の取り組みの基本方針を作成し、4月当初の野畑花だよりや、PTA総会・学級懇談会などでお伝えします。ぜひご参加ください。